

タイトル：止水板の設置と小さな工夫で水害から自社を守る



水害

ポイント

- 止水板を設置すべき場所の優先順位をつけ、主要設備を保護。
- 物を高いところに置く等、日頃から小さな工夫も行うことが重要。

BCP策定のきっかけ

- 当社は1階が工場（作業スペース）、2階が事務所であり、これまで三度大雨の被害（浸水）に遭った。一度目、二度目共に70cmほど工場に浸水し、被害額は各々約5000万円であった。
- 一度目の水災では、保険に入っていたものの水災までカバーできる保険ではなく、お見舞い金の200万ほどしか出なかった。
- 再稼働まで1ヶ月ほどかかった。その間、一部業務を外注せざるを得なかったため、売上は維持できたが利益率が大幅に下がった。
- 一度目の水災をきっかけに保険を見直し、二度目の水災では被害額を保険金でまかなうことができた。ただ、自社で水災への備えも準備したいという思いがあった。そこで、止水板の設置を検討したが、見積もりをとったところ費用がとても高額であった。
- 久留米市商工会議所に何か使える補助金がないか相談したところ、久留米市が行っている「久留米市中小企業止水板等設置事業費補助金」を紹介してもらい、この補助金を活用し止水板を設けたいと考えた。
- 当該補助金の申請要件として「事業継続力強化計画の策定」があったことから、自社の水災対策も計画できる機会と思い策定に着手した。

BCP策定時の課題と解決方法

- 当初、工場全面に止水板を設置することも検討したが、費用面で断念。そこで、移動が困難かつ高価な生産設備の周りに限定して止水板を設置することにした。
- 止水板を設置した時にどうしても隙間が発生するため、その隙間から水が入ってくる可能性があった。そこで、止水板を設置する箇所に防水塗装を行った。また、止水板を設置した箇所の排水機能も完備した。
- 主要設備の周りに新たにコンクリート壁を設け、小部屋風のつくりにした。これにより、水災から守る範囲をより限定的にした。

策定した内容

- 止水板の設置のほかにも、「床面からのコンセントの高さを通常30センチほどのところを1メートルに上げる」、「床面に置いていた設備関係を棚に上げて保管する」、「棚にキャスターを付けて物を移動しやすくする（非常時には止水板の中に移動）」等の工夫を行った。

BCP策定後の効果

- 日頃から作業道具や納入品を高い箇所に置く意識づけが社内で行われるようになった。
- 三度目の水災が起き工場に浸水した際には、止水板の活用や水災に備えた工夫を行っていたことにより、主要な設備をはじめ多くの備品も守ることができた。その結果、被害額をこれまでの1/10以下に抑えることができた。
- 社用車は止水板の中には入らないので、高台にある第二倉庫に移動させて保護するようにした。
- リフトカーで物を上げる等、浸水に備えたアイデア出しも行うようになった。
- 台風も多い地域であるので、今後は台風対策も含めた防災計画を検討したいと考えている。また、事業継続力強化計画の申請についても更新（二回目申請）を行う予定。

テーマ：経営資源の保護

止水板設置前



機械周り



工房出入口

止水板設置工事開始 (コンクリート塗装)



機械周り



工房出入口

止水板設置後



機械周り



工房出入口

【会社概要】

企業名：株式会社日展コーポレーション
所 在：福岡県久留米市梅満町 1 5 9 8
資本金：100万円
従業員数：8人
業 種：製造業
企業HP： <https://nitten-corporation.com/>

活用施策

- ・事業継続力強化計画
- ・久留米市中小企業止水板等設置事業費補助金